

ハラジザエモン 原治左衛門 百五十石を領し、享保十年七十六歳を以て歿した。子孫藩に世襲する。

ハラシノキヘエ 原徳喜兵衛 初め喜三郎。明和七年御算用者で年寄中席執筆となり、天明七年小頭並として新知六十石を受け、寛政五年三十石を加へ、十二年又三十石を加へて組外に列し、文化三年御勝手方席執筆に轉じ、その後屢加俸して二百五十石に至り、文政八年十月隠居した。子孫世々藩に仕へる。

ハラシゴロウ 原新五郎 延寶六年御歩となり、十年六月御細工小頭に進んで新知百石を受け、享保十年五月三十石を加へ、組外に班し、十六年九月九日歿。子孫藩に世襲する。

ハラセイソウ 原省藏 鳳至郡鶴川の。諱は碩、字は子徳、號は勤草・生成藏・成藏。陽崎漁史・桐陰。通稱二松・幸太郎・幸廣・省藏。文政八年四月生まれ、天保十一年七尾に出でて備醫を安田竹莊に學び、十五年京都に赴き、醫を山崎玄東・江島靜安・中山安順に習ひ、弘化二年中島棕隱の能登に來た時詩文を問ひ、翌年大坂に行きて篠崎小竹・三井元繼・緒方弘庵に從ひ、四年歸郷し、帷を垂れて門弟に教授し、明治元年切思館を建て、内塾とした。その後小學教育に從ひ、廿九年一月廿八日七十二歳を以て歿。勤草詩稿の著がある。

ハラソウザエモン 原惣左衛門 初名九郎三郎。前田利常に仕へて祿四百石を受け、大坂再役に從軍し、片桐市正第にて敵首を取つた。慶安五年歿。

ハラタダナリ 原尹睦 通稱彌右衛門・彌三兵衛。彌三兵衛尹養の子。俸百三十石。明和

八年江戸御廣式番、天明元年同御用人、七年二十石を加増し、物頭並江戸御廣式御用を勤め、寛政六年六月廿四日歿した。享年六十六。ハラタネツネ 原種藤 通稱惣次郎・惣太夫・七郎左衛門。明和九年金谷御廣式御用達となり、天明四年六月新知百石を受け、六年前田齊廣の御抱守となり、寛政八年御大小將組に班し、九年五十石を加へ、享和二年御表小將横目から次第に昇進して物頭並に至り、文化五年五月百五十石を加へ、七年三月致仕し、俸二十人扶持を受けて丹朴と號した。

ハラタネムネ 原種致 通稱三左衛門・八郎右衛門・九兵衛。祿百石。寛政元年前田齊廣の御抱守となり、八年御大小將組に班し、享和元年十二月五十石を加へ、二年御近習詰となり、同年十一月十五日歿した。

ハラタマタエモン 原田又右衛門 尾張荒子に於いて前田利家に仕へ、祿途に七百石に至つた。その又右衛門の名は利家の通稱の一受けを受けたのである。天正十二年佐々成政に備へる爲河北郡朝日山堡の裨將となり、敵を撃退した。その子も又右衛門といひ、諱は種房、幼なるを以て四百石を襲ぎ、慶長十七年歿。子孫八代又六郎幸年、五百石を領したが、天保十一年七月知行を召放され、本宗の統は滅亡した。

ハラタロザエモン 原太郎左衛門 初めて前田綱紀の祿する所となり、百五十石を受け、元祿十二年歿。子孫世々藩に仕へる。

ハラタンボ 原友坊 鳳至郡寺分の内の小字。

ハラツラマサ 原實昌 通稱政造、字は大卿。近江の人。金澤に來寓して帷を下し、就

いて學ぶ者多かつたが、その文を作るや信備齋牙、人をして解し易からざらしめ、以て世を嚇せんとするものであつた。藩主亦時々賞昌を請じて、經を明倫堂に講せしめたことがある。寛政の頃の人。

ハラナホマサ 原直政 通稱織之助。萩原半左衛門の子で、原宗左衛門に養はれ、寛政八年その遺知百石を襲いだ。直政最も相劍の術に精しく、人多くその鑑定を請うた。文化七年十月二十日享年四十を以て歿。

ハラヒガハ 渡瀬川 白山の尾添口登路で、尾添の部落から尾添野を経て山路にかゝる所を流れる。白山遊覽圖記にいふ。猫島の東南に在つて、源を白山谷一名深山谷に發し、えんの谷・ふくへ谷・ちせんきりひらけ・まさき谷・みきり谷・みづは谷・やみづ谷の水を容れたものである。進香者こゝに祓禊するに因つてこの名がある。

ハラヒマイ 拂米 ↓マチクラマイ 町藏

ハラヒマイキツテ 拂米切手 藩の給人から藏宿に預けてある收納米を、米仲買に賣出した切手である。この切手は、給人から藏宿宛に發行したもので、それを買附けた米仲買の證明書が添付せられ、米場で賣買せられた。拂米切手の額面は百石・五十石の外、小物というて五十石未満のものとの三種があつた。

ハラマタハチ 原又八 初めて前田利長に仕へて四百石を領した。九代亥之助二百石を領したが、天保三年正月十七日家來を刺殺し、己亦自害して家断絶した。

ハラモトチカ 原元隣 通稱鐵三郎・治太夫。文左衛門元善の養子。祿百五十石で御馬

廻組に班し、吉久御詰米奉行となつたが、文化十年八月役儀に私曲あるを以て御預となり、十一年七月四日五ヶ山に流刑を命ぜられ、その子も能登島に移されて家断絶したが、後配所を免ぜられて金澤に歸つた。

ハラモトトシ 原元甫 通稱他四郎。初祖吉右衛門の三子太左衛門から五代に十郎右衛門元通があり、寶曆三年四十七歳を以て歿し、子織之助幼少で遺知三百三十石の三の一を襲ぎ、六年早世断絶した。然るに七年前田利常の百回忌に當つたので、津田伊右衛門の弟元甫に元通の知行の内二百二十石を賜うて組外に班せしめられた。後明和二年十二月相對死を企て、女を刺殺した後、己は死運れた麻を以て入牢、天明三年獄死して再び断絶した。

ハラモトナリ 原元成 通稱求馬・五郎左衛門・彌正。九左衛門元慶の養子。延享二年御使番から昇進し、天明五年十二月人持組に班し若年寄に任ぜられ、祿八百八十石から屢増して二千二百八十石に至つたが、七年六月役儀を除き千石を減じ、人持末席を以て待遇せられ、寛政三年十一月隠居して子孫と號し、料三百石を受け、七年五月十八日七十六歳を以て歿した。

ハラモトノブ 原元寅 通稱將監、初名九左衛門。一諱元昭・元憲。字は正夫、又は伯成。淇園と號した。延寶四年家を繼ぎ、八百八十石を領し、使番・先簡頭・小將頭・馬廻頭を経て、享保九年定番頭に至り、十二年致仕して弛休といひ、十三年正月晦日七十八歳で歿した。元寅學を室鳩巢に、書を山本基勝に學び、遺稿に淇園集十卷がある。又詩林雜纂數十卷を編み、加賀藩文學の士の時什を輯め